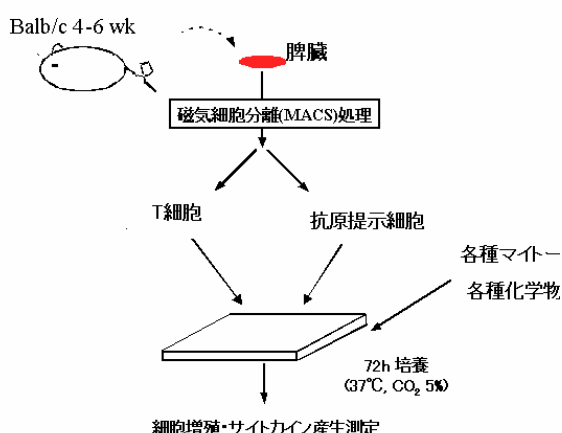


内分泌攪乱物質の免疫系への影響の検討 ービスフェノールAについてー

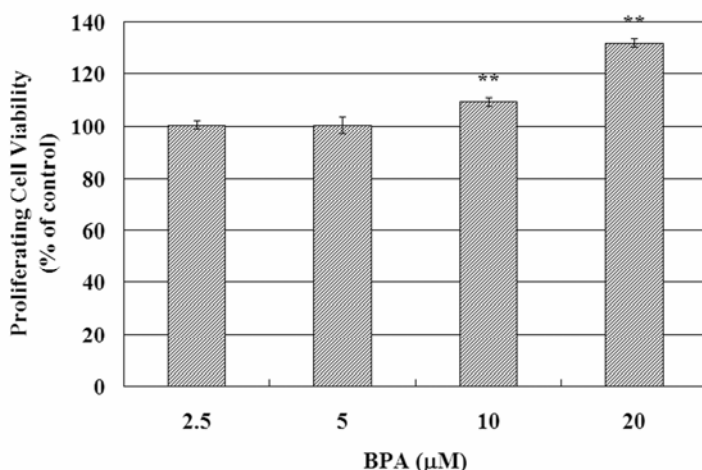
背景

近年、食品や生活環境へ混入する化学物質のいくつかに性ホルモン様活性が確認され、生体への悪影響が危惧されている。しかし、その作用機構は未だ明らかではなく、効果は内分泌攪乱にとどまらず、多岐にわたることが予想される。現在、食品機能部では、分析科学部と共同で代表的な内分泌攪乱物質であるビスフェノールAについて、免疫系への影響を検討中である。

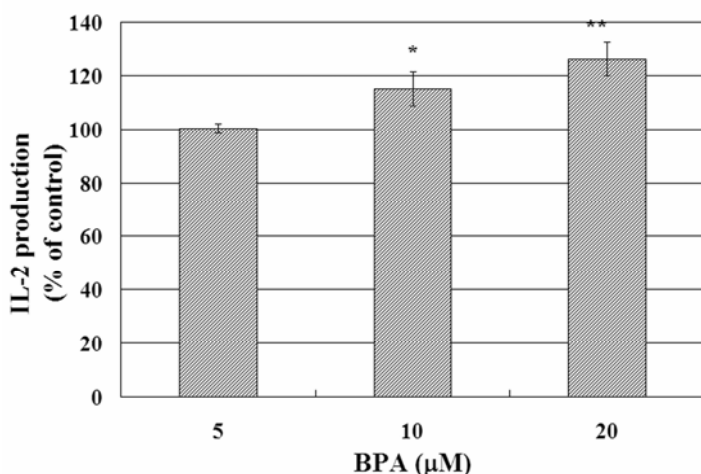
実験概念図



ビスフェノールAによる脾臓細胞の増殖亢進



ビスフェノールAによる脾臓細胞のサイトカイン産生亢進



技術の特徴

- 細胞培養技術
- フローサイトメータ解析による細胞表面分子判別
- MACSによる細胞分離・分取技術

今後の展開

- 応答修飾にessentialな細胞・表面分子の同定
- in vivoでの検討
- 関連物質の応答修飾の検討



独立行政法人
食品総合研究所

代表研究者: 後藤 真生
所 属: 食品機能部 機能成分研究室

問い合わせ先: 研究交流科 関谷 修三
e-mail: atunisi@nfri.affrc.go.jp